

平成二十八年 度

小学校教員資格認定試験

教職に関する科目(Ⅱ)

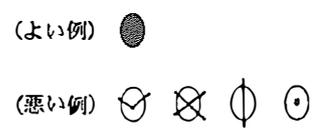
国 語

注 意 事 項

受験者は、左記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験実施大学の指示によること。

- 一、試験監督者の「始め」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 二、実施大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成二十八年 度「幼稚園・小学校教員資格認定試験解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
- 三、受験番号、受験科目をマークしてください。  
ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
- 四、解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
- 五、解答は、全て解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
- 六、マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。  
訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。  
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
- 七、この試験の解答時間は、「始め」の合図があつてから五〇分です。
- 八、試験が終わるまで退室できません。
- 九、試験監督者の「やめ」の合図があつたら、直ちにやめてください。
- 十、下書きには問題冊子の余白を使用してください。
- 十一、試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。

[マーク例]



※以下の問いにおいて、「小学校学習指導要領(国語)」とは、「小学校学習指導要領」(平成二十年文部科学省告示第二十七号)第2章 第1節 国語を言う。

問一 次の文章は、『小学校学習指導要領解説 国語編』(平成二十年八月、文部科学省)「第1章 総説」の「3 国語科改訂の要点の①② 内容の構成の改善」の一部である。文中の空欄「A」～「D」に入る語の組合せとして正しいものを、後のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

各領域では、国語の能力を調和的に育て「A」で生きて働くように、それぞれの領域の特性を生かしながら児童主体の「B」を活発にし、国語科の目標を確実に豊かに実現できるように内容を改善した。そのために、各領域の内容を(1)の指導事項に示すとともに、これまでは「C」に示していた言語活動例を内容の(2)に位置付け、再構成している。これは、各学年の内容の指導に当たって、(1)に示す指導事項を(2)に示す言語活動例を通して「D」することを一層重視したためである。

	A	B	C	D
ア	言語生活	言語活動	学習指導要領解説	指導
イ	実生活	学習活動	学習指導要領解説	充実
ウ	言語生活	学習活動	内容の取扱い	充実
エ	実生活	言語活動	内容の取扱い	指導

問二 次の文は、「小学校学習指導要領(国語)」〔第3学年及び第4学年〕「A 話すこと・聞くこと」の「1 目標」の(1)に示されている文である。文中の空欄「A」～「D」に入る語の組合せとして正しいものを、後のア～エの中から一つ選んで答えなさい。

相手や「A」に応じ、調べたことなどについて、「B」話す能力、話の「C」に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるともた、「D」話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

	A	B	C	D
ア 意図	筋道を立てて	中心	進んで	
イ 目的	順序を考えて	要点	工夫をしながら	
ウ 意図	順序を考えて	要点	進んで	
エ 目的	筋道を立てて	中心	工夫をしながら	

問三 「小学校学習指導要領(国語)」における各学年の「2 内容」の「A 話すこと・聞くこと」の(2)に示されている言語活動例と学年の組合せとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 「第1学年及び第2学年」——尋ねたり応答したり、グループで話し合っただけで考えを一つにまとめたりすること。
- イ 「第1学年及び第2学年」——出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。
- ウ 「第3学年及び第4学年」——調べたことやまとめたことについて、討論などをすること。
- エ 「第5学年及び第6学年」——学級全体で話し合っただけで考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。

問四 「小学校学習指導要領(国語)」における各学年の「2 内容」の「B 書くこと」の(1)に示されている、書くこと<sup>1)</sup>の能力を育てるための指導事項について、学年と事項の組合せとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 「第1学年及び第2学年」——文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。

イ 「第3学年及び第4学年」——自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。

ウ 「第3学年及び第4学年」——書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。

エ 「第5学年及び第6学年」——文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。

問五 「小学校学習指導要領(国語)」(第3学年及び第4学年)の「2 内容」における「B 書くこと」の(2)に示されている言語活動例に含まれないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。

イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。

ウ 目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。

エ 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。

問六 「小学校学習指導要領(国語)」(第1学年及び第2学年)の「2 内容」における「C 読むこと」の②に示されている言語活動例に含まれないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 紹介したい本を取り上げて説明すること。
- イ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。
- ウ 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。
- エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。

問七 次の文章は、「小学校学習指導要領(国語)」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」1の⑤に示されている文章である。文中の「A」「B」「C」「D」の空欄に入る語の組合せとして正しいものを、後のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

第2の各学年の内容の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、「A」において読書活動を活発に行うようにするとともに、他の教科における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。学校図書館の利用に際しては、本の題名や種類などに注目したり、索引を利用して「B」をしたりするなどにより、必要な本や「C」を選ぶことができるように指導すること。なお、児童の読む図書については、「D」のため幅広く、偏りがないように配慮して選定すること。

- |   |      |     |     |      |
|---|------|-----|-----|------|
|   | A    | B   | C   | D    |
| ア | 日常生活 | 検 索 | 資 料 | 人間形成 |
| イ | 日常生活 | 調 査 | 資 料 | 人格形成 |
| ウ | 日常生活 | 調 査 | 情 報 | 人格形成 |
| エ | 社会生活 | 検 索 | 情 報 | 人間形成 |



問九 次のA～Dは、「小学校学習指導要領(国語)」2 内容の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に示されている事項である。このA～Dと「指導すべき学年」の組合せとして正しいものを、後のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- A 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。
- B 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。
- C 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。
- D 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。

- ア [第3学年及び第4学年] Ⅱ AとB [第5学年及び第6学年] Ⅱ CとD
- イ [第3学年及び第4学年] Ⅱ AとC [第5学年及び第6学年] Ⅱ BとD
- ウ [第3学年及び第4学年] Ⅱ CとD [第5学年及び第6学年] Ⅱ AとB
- エ [第3学年及び第4学年] Ⅱ BとD [第5学年及び第6学年] Ⅱ AとC

問十 「小学校学習指導要領(国語)」第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の3の(2)に、教材選定の際に配慮すべき観点が10点挙げられている。次のA～Fは、それらを抜き出したものであるが、誤りも含まれている。観点10点に含まれているものはどれか。後のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- A 国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。
- B 伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養うのに役立つこと。
- C 科学的、論理的な見方や考え方を育て、視野を広げるのに役立つこと。
- D 人間には弱さや醜さもあることを理解し、寛容の心を養うのに役立つこと。
- E 働くことの意義を理解し、進んで社会に参加する態度を育てるのに役立つこと。
- F 世界の風土や文化などを理解し、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

- ア A・B・C・D
- イ A・B・C・E
- ウ A・B・C・F
- エ A・B・D・F

問十一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

マズローは人間には欠乏の欲求ばかりでなく成長の欲求が備わっていると考えた。 A カシの木がだんだん大きくなってカシの実をつけるように、人間は自分の能力、創造性、分別や思いやりなど、自己の人間性をだんだん完成に近づけようとする欲求を持っている。それが自己実現の欲求である、とマズローはいう。

マズローの学説で有名なのは欲求階層説である。人間の欲求は低次のものから高次のものに階層をなしており、人間はまず低次の欲求を満たそうとするが低次の欲求が満たされると高次の欲求を満足させようとするものだという理論である。

マズローは欲求の五つの階層をあげている。最も低次の欲求は食欲や睡眠などの B である。 B は生命維持にかかわる欲求であるから、それが満たされなければそれ以上の欲求を云々するところではない。 B が満たされると、次に C が生まれる。 C というのは、自分の置かれている環境が安定していて秩序だっていることを求める欲求である。火事や天変地異が起こったとき人間はどう行動していいかわからなくなつて恐怖に襲われパニックにおちいる。そういう状態を避けようとする欲求である。

このふたつの欲求が満たされると、次の欲求があらわれる。所属と愛の欲求である。これは愛し愛される関係、理解し理解される関係、お互いに何の不安もなく信頼で結ばれた関係を求める欲求である。所属と愛の欲求の上に位置するのが D である。 D とは、自分に自信を持ちたいという欲求であり、また名声や地位を獲得したいという欲求である。つまり自尊心を持つことである。これがないと人びとは劣等感や無力感にさいなまれることになる。

これら四つの欲求が適度に満たされると自己実現の欲求があらわれる。 E である。四つの欲求は満たされるとそれ以上のものを求めないが、自己実現の欲求だけは限りがないとマズローはいう。

(広岡守穂『市民社会と自己実現』による)

本文中の空欄

A

に入る副詞として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア たとえ

イ あたかも

ウ あながち

エ かえつて

問十二 問十一の本文中の空欄

B

C

D

に入る言葉の組合せとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で

答えなさい。

ア B 安全の欲求・C 生理的欲求・D 承認の欲求  
ウ B 生理的欲求・C 安全の欲求・D 承認の欲求

イ B 承認の欲求・C 安全の欲求・D 生理的欲求  
エ B 生理的欲求・C 承認の欲求・D 安全の欲求

問十三 問十一の本文中の空欄

E

に入る語句として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 他人のために無償奉仕をしたいという欲求  
ウ 何かになりたい、何かを成しとげたいという欲求

イ 今の自分とは全く違った存在になりたいという欲求  
エ 市民社会の一員としてふさわしい行為をしたいという欲求

問十四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

『大鏡』の一節  
著作権者の承諾得られず不掲載

（『大鏡』による。一部表記を改めた。）

（注） 世継——大宅世継。『大鏡』の主たる語り手。

右の文章の傍線部A「さかしき」の意味として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 栄華を誇った
- イ そのような
- ウ 厳格な
- エ 賢明な

問十五 問十四の文章中の傍線部B「奏する」はどのような場合に使用される語か。次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 皇太子や皇后に申し上げる場合
- イ 天皇や上皇に申し上げる場合
- ウ 老人や老婆に申し上げる場合
- エ 摂政や関白に申し上げる場合

問十六 問十四の文章中の空欄

C

D

に入る語の組合せとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア C 老いたる D 若き人たち
- イ C 帝 D 老いたる
- ウ C 帝 D 若き人たち
- エ C 若き人たち D 老いたる

問十七 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合で、一部の返り点・送り仮名を省略した。

李斯者、楚上蔡人也。年少時、為郡小吏。見吏舍廁中、鼠食不絜。近人犬

A 数驚恐之。斯入倉觀倉中鼠食積粟、居大廡之下、不見人犬之憂。於是李斯

乃歎曰、人之賢不肖、譬如鼠矣。在所自処耳。

(『史記』李斯列伝による)

(注) 李斯——秦の始皇帝に仕えた宰相(？前二〇八)。上蔡——地名。小吏——小役人。吏舍——役所。不絜——「不潔」に同

じ。ここでは糞便を指す。積粟——積み重ねられた穀物。大廡——大きな屋根。

傍線部Aの「之」は「人犬(人や犬)」を指すが、送り仮名を省略した「数」のここでの意味として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア かぞえる
- イ せめる
- ウ たびたび
- エ 運命

問十八 問十七の傍線部B(返り点・送り仮名は省略した)の書き下し文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 倉中の鼠の積粟を食らひ、大廡に居るを覩るの下、人犬の愛ひを見ず。
- イ 倉中の鼠の積粟を食らひ、大廡に居るを覩るの下、人犬を見ざるを憂ふ。
- ウ 倉中の鼠の積粟を食らひ、大廡の下に居り、人犬の愛ひを見ざるを覩る。
- エ 倉中の鼠の積粟を食らひ、大廡の下に居り、人犬を見ざるの愛ひを覩る。

問十九 次の傍線部の中には、「地元を出る」における「を」と同じ用法のものがある。それを次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 天ぶら<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>食べる。
- イ 子ども<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ほめる。
- ウ 電車<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>降りる。
- エ 山道<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>歩く。

問二十 次の傍線部の中には、物の数え方として誤っているものがある。それを次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア うさぎが<sup>一</sup>羽<sup>二</sup>飛び出した。
- イ 笛が<sup>一</sup>本<sup>二</sup>置いてある。
- ウ 短歌を<sup>一</sup>句<sup>二</sup>くちずさむ。
- エ 田んぼを<sup>一</sup>枚<sup>二</sup>耕した。